

大楠公（河野天籟）

赤坂の城 千窟の屯

妖雲 漠々 天を捲いて 臻る

夢は 新たなり 笠置 山頭の 暁

花は 散り 香は 薫る 芳野の 春

涙を 呑んで 児に 別る 桜井の 駅

笑って 死に 就く 湊川の 津

南風 競わず 地に 塗ると 雖も

偉績 長えに 伝う 忠烈の 神

赤坂之城千窟屯 妖雲漠漠捲天臻
夢新笠置山頭暁 花散香薰芳野春
吞淚別兒櫻井驛 笑而就死湊川津
南風不競雖塗地 偉績長傳忠烈神

解説 作者が楠公六百年祭に当たり、楠木正成の事績をたたえたもの。

語釈 ※赤坂Ⅱ楠木正成の居城があった所。 ※千窟Ⅱ四面の谷深きこと。 ※屯Ⅱ人の多く集まる所、※妖雲Ⅱ妖氣をはらんだ雲。 ※漠漠Ⅱひろびろとして果てなきさま。ここでは大軍の布き並び、散り敷くさま。 ※捲天Ⅱ勢の激しく強いさま。 ※夢新Ⅱ後醍醐天皇が笠置山に籠城していたある日、天皇は夢を見た。宴席で上座が空いていた。そこに童子が現れ、「南に枝を伸ばした木の下にある上座があなたの席です」と言う。目を覚ました天皇は、木に南で楠という文字になることに気付き、神のお告げに違いないと楠を探させたところ、楠木正成であったと言う。 ※笠置Ⅱ笠置寺は山上にあった。
※桜井駅Ⅱ正成は弟正季、十一歳の子・正行と陣につく。子供であった正行を河内に帰らせ後の処理を任せた。 ※湊川Ⅱ摂津国湊川で足利尊氏軍と、新田義貞・楠木正成軍との間で行われた合戦の場所。 ※南風不競Ⅱここでは南朝をさす。 ※偉績Ⅱすぐれた業績。 ※忠烈Ⅱきわめて忠義心の厚いこと。

通釈 赤坂・千早の城は楠木正成の居城である。正成らの活躍で、建武の中興はなつたが、足利尊氏が反乱、一度は九州に敗走させたものの、今また妖雲となり、天をおおわんばかりに押し寄せてきた。正成は、後醍醐天皇の夢に現われて笠置山で謁見して以来、吉野山へのご遷幸まで、変わらぬ忠誠を尽くしてきたが、その夢が今、新たに思い出される。その思いを胸に、正成は、再度攻めのぼつてきた敵、足利尊氏の大军を討つべく、兵庫に向かう。その途中、桜井の駅で一子、正行に後事を託して惜別、正行を河内に返し、自らはわずかな手勢を率いて湊川で戦ったが、笑って死についた。南朝の勢いはふるわず、一敗地にまみれたとはいえ、正成の偉功は消えることなく、忠烈武勲の神として永遠に伝えられるだろう。